

「いわて汚水処理ビジョン 2010」を策定！！

～ 豊かで快適な環境を創造する基盤づくり ～

下水環境課

岩手県では、2005年2月に「いわて汚水適正処理ビジョン 2004」を策定し、汚水処理施設の整備を進めてきました。しかし、社会情勢の急激な変化など、汚水処理を取り巻く環境が変化し、ビジョンを見直す必要性が出てきました。

このため、2009年度から2010年度の2か年にわたってビジョンの見直し作業を行い、今回、新たに「**いわて汚水処理ビジョン 2010**」を策定しました。今後は、本ビジョンに基づき、汚水処理施設の普及などに取り組んでいきます。



汚水処理ビジョンとは??

汚水処理ビジョンは、下水道等の汚水処理施設の普及にあたり、どの地域をどのように整備（下水道、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、浄化槽等）するのか、その計画を示した県構想です。

汚水処理施設の整備計画のほか、汚水処理により発生する汚泥の処理方針や、維持管理の方針等についても示しています。

【「いわて汚水処理ビジョン 2010」の策定経緯】

平成 22 年 3 月

新しい県構想の素案を策定

平成 22 年 4 月

学識経験者等で構成する「岩手県汚水処理ビジョン検討委員会」(会長：海田岩手大学教授)を設置。以降、委員会を5回開催。

平成 22 年 8 ~ 9 月

パブリックコメントを実施(1ヶ月間)

平成 23 年 1 月

「岩手県汚水処理ビジョン検討委員会」から、県及び推進会議あて提言

平成 23 年 2 月

「岩手県汚水適正処理推進会議」で新構想を承認



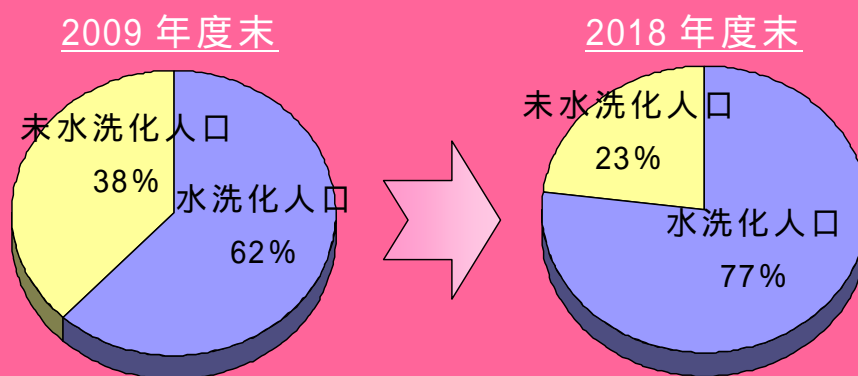
「岩手県汚水処理ビジョン検討委員会」での検討状況

「いわて汚水処理ビジョン 2010」策定

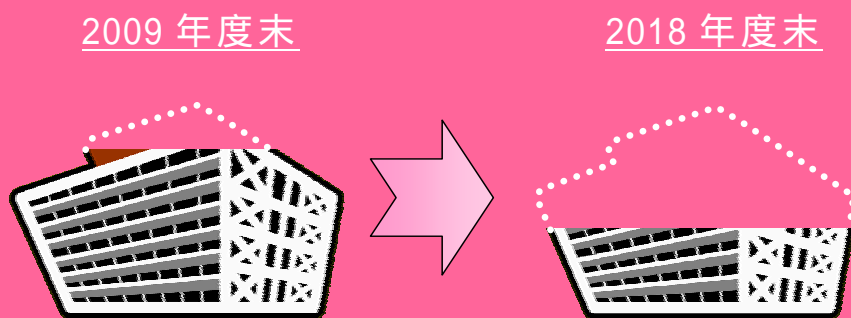
【「いわて汚水処理ビジョン 2010」の主な目標】

これまでの汚水処理の取組は、「普及率（整備率）」を目標に掲げて整備を進めてきましたが、汚水処理施設が整備されても下水道等に接続する水洗化人口が増えなければ、整備効果は現れず、施設の稼働率も低いままとなってしまいます。このため、目標とする指標を「普及率（整備率）」から「水洗化人口割合」に変更するとともに、環境負荷の削減目標として「未処理家庭雑排水量」を指標に追加しました。

2018年度末の水洗化人口を
県民の77%⁽¹⁾にします。



処理しないまま川へ流れている
家庭雑排水を県庁 0.9 杯分
から 0.5 杯分⁽²⁾に減らします。
(1日当りの換算値)



1 適正な汚水処理を行っている人口割合で「水洗化人口（家庭雑排水のみの接続を含む）/ 行政区域内人口」で算定

2 岩手県庁の容積を 8 万 5 千 m³ としして算定。

「いわて汚水処理ビジョン 2010」の詳細はこちらの下水環境課 HP をご覧ください！！
<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=2168&of=1&ik=3&pn=66&pn=2156&pn=2168&cd=26429>